

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏季繁忙期を迎え、国内線、国際線共に、航空需要が伸びている。観光や帰省などでの利用に加え、半導体関連やコールセンターなどに代表されるビジネス関連の利用が堅調に推移しているほか、プロスポーツの2軍誘致やスポーツ合宿などの新たな話題がみられることもプラスであった。
	○	百貨店（売場主任）	それ以外	・前年と比べて、気温が低めに推移しているため、秋物のファッションアイテムやライフスタイルアイテムが、前年よりも早い8月後半から動き始めている。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が緩やかに増加している。それに伴って、購買件数、購買金額も増加している。この傾向は、今後続くと思われる。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量の増加に伴い、利益率及び経費率が改善している。
	○	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・今年の当地域は、注意報が出るような高温の日がほとんどなく、夏としては過ごしやすことから、客足が途切れず、売上も安定的に推移している。夏物商材の動きは落ち込んでいるものの、定番品は順調に推移している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・4月にタクシー運賃を改定したことで、若干の乗り控えがみられたものの、そうした影響が落ち着きつつあることで、当社の経営状態も上向いている。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・通信料金やサービス内容の見直しニーズが継続している。見直しの内容も、単なる価格重視ではなく、ポイント還元や付帯サービスを含めて、総合的に判断する利用が増えていく。一方、都市部と地方での需要の差、商圏や店舗による客の来店動向のばらつきもみられる。通信サービスに対する需要は堅調に推移しているものの、客の選別志向が続いており、契約に対する判断が慎重になっている傾向がうかがえる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期を迎え、国内客、インバウンド共に、特に個人客の利用が好調であった。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・売上の動きが徐々に良くなっている。ただし、商品単価の上昇による部分が大きく、来客数は売上ほど伸びていない。商品を買える人と買えない人がはっきりと分かれ始めていることがうかがえ、将来的には不安である。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・他地域と比べると、当地域は比較的過ごしやすい気温で推移していることから、道外からの避暑を目的に、当地を訪れる観光客が多くみられた。そのため、観光関連業種や飲食店は、比較的順調に推移した。一方、一般消費については、物価やガソリン価格の高騰による影響もあって、低迷している。駐車場の稼働率も低下している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月前半は、地域の主要イベントが開催されていたこともあって、にぎわいがみられたものの、月末に近づくにつれて、利用客が減少する傾向がみられた。区域内の有料駐車場は、利用状況が3割程度となっており、そのうち管外ナンバーの車両による利用は3割程度にとどまっている。一方、有名飲食店や菓子店などは、多くの観光客が訪れていた。
	□	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今年に入ってから、売上が低調に推移しており、勢いがみられない。夏場は祭りなどのイベントが多く、例年であれば、売上も大きく増加するものの、今年は例年ほどの伸びがみられない状況にある。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・年金で生活している客が多いため、物価高が続いていることで、相当厳しい状況となっている。客から、商品を買いたいけれど買えないという声を聞く機会が増えている。

☐	スーパー（店長）	販売量の動き	・例年よりも涼しいことから、夏物商材の在庫消化が進まない。衣料品だけでなく、寝具や空調機器なども在庫が過剰になりつつある。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・7月は前年よりも気温が低かったことで、売上が前年を下回ったものの、8月は6月までと同様の水準に回復している。来客数は微減傾向にあるものの、値上げ分の上乗せがあることで、売上が前年を上回る傾向が続いている。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・8月は気温が高めで推移したこともあって、飲料などの夏物商材の動きが良かった。また、イベント効果がみられたほか、観光客の動きも良かった。
☐	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温が上昇していることで、来客数は3か月前よりも増えている。ただし、前年の水準を下回る傾向が続いており、景気の落ち込みがうかがえる。
☐	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・商品単価が上昇傾向にあるなか、来客数、買上点数が頭打ちになっている。客は、生活必需品には金を掛けるものの、それ以外の商品については、今必要な商品かどうかを考えた上で、買物していることがうかがえる。
☐	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・メーカーによる一部車種の増産もあって、販売できる車種が増えているものの、客の動きが鈍く、なかなか販売につながらない。客が購入をなかなか決断できない様子もみられ、特に高額車種の動きが悪くなっている。
☐	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前は、新車、中古車共に、前年比120%程度の販売量と良かったものの、8月は新車が前年比80%、中古車が前年比160%となっている。中古車が新車の落ち込みをカバーしている状況となっている。
☐	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・3か月前と比べて、カーオーディオなどの電装品や車内小物用品の売上が10%減少しているものの、タイヤ、ホイール、エンジンオイル、洗車用品の売上が伸びている。全体的にみると、自家用車に必要な商品の購入が目立つ一方で、便利グッズなどの必須ではない商品の購入が落ち込んでおり、客の購買動向にメリハリがみられるようになっている。
☐	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、中東情勢の影響が薄れていることで、関連商品の動きに変化がみられるものの、それ以外の商品に大きな変化はみられない。全体的に、一般消費者の購買動向は良くも悪くもなっていないため、景気は変わっていない。
☐	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・燃料油価格激変緩和対策事業が継続していることから、販売価格に変化がみられず、安定的に推移している。
☐	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数の前年比をみると、前年から1割減となっており、3か月前と傾向は変わっていない。一方、令和8年熊本地震の影響については、予約動向にそれほど変化はみられなかった。
☐	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・法人部門においては、周年事業や大型イベント案件が少なかったことから、需要が低調に推移しており、低迷が続いている。個人旅行については、需要に大きな増減はみられず、前年と同様の動きで推移している。
☐	タクシー運転手	販売量の動き	・イベント効果により、人出はあるものの、イベントの規模が例年と同様なこと、想定内の売上にとどまった。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・人出は増えているものの、利用客が少なかった。
☐	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の動きが余り良くなく、乗客数に伸びがみられなかった。
☐	美容室（経営者）	お客様の様子	・食品などの値上げの動きが落ち着いたこと、米が値下がりしていることから、客の支出引締め動きがやや和らいでいる。
☐	美容室（経営者）	来客数の動き	・売上は前月よりも良かったものの、来客数はほとんど変わっていない。
☐	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ゼネコン業界は比較的好調なものの、住宅業界は厳しい状況となっている。

□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客の様子をみると、一部の客ではあるものの、今後の販売価格の上昇を見込んで、価格が安いうちにマンションを購入する動きがみられる。
□	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・金利の上昇と資材価格の高騰が、今後も見込まれていることから、厳しい状況が続いている。
□	住宅販売会社 (営業担当)	販売量の動き	・販売量、来客数の動きから、ほとんど変化のない状況となっている。
▲	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・客の購買意欲が余り感じられない。ただし、極端に悪くなっている様子もみられない。
▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・例年、お盆期間は稼ぎ時であるものの、今年は気温の低い日が多かったことから、焼き肉用品や行楽用品などの夏物商材の販売が不振であった。8月中旬以降は、気温が上昇したことで回復傾向に転じたものの、全体的には、商品の価格高騰の影響や前年の備蓄米販売に伴う反動減もあって、客の買上点数が伸びてこない状況にある。
▲	スーパー (役員)	お客様の様子	・商品の値上げが続いていることから、売上はプラスになっているものの、客の節約志向が依然として強いことから、景気はやや悪くなっている。
▲	コンビニ (エリア担当)	販売量の動き	・値上げの影響もあって、売上が伸びている日もみられるものの、販売量が上向いてこない。8月は、天候が良かったにもかかわらず、販売量の動きが良くなっていないことから、景気が良いとはいえない状況にある。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・暑さの影響はそれほどみられないものの、夏枯れという季節的な影響もあって、車の販売量はやや落ち込んでいる。令和8年熊本地震の影響により、メーカーの生産遅れがみられることもマイナスであり、全体的な景気は厳しい状況にある。
▲	その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・仕入商材の値上げが続いていることから、消耗品などのふだん使いの資材の使用を抑えるようにしている。また、商品を過剰にストックしないよう仕入れを調整している。
▲	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・来客数は例年並みであるものの、売上が前年を下回りそうなことから、景気はやや悪い。今年は気温の高い日が少なかったため、ビールの売上が少なかった。ただし、当地の夏の風物詩である大規模ピヤガーデンについては、前年を12%上回る来客数がみられたようである。食材の納品業者からは、ホテル向けの朝食用の納品量が増えたという話を聞いた。
▲	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・お盆期間も含めて、夏場の集客が減少傾向にある。全国的な猛暑や食料品価格の上昇により、客の旅行控えが顕在化している。
▲	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・例年であれば、8月末から、紅葉シーズン、年末年始、冬休みの旅行相談に加え、スキーやスノーボードを目的とした当地域内リゾートへの旅行相談が徐々に増えてくるものの、今年は、例年と比較して、相談件数が明らかに低い水準にとどまっている。
▲	観光名所 (従業員)	来客数の動き	・天候不順の影響により、期待していた来客数を下回った。観光客は、インバウンドだけではなく、国内観光客もそれなりの人数が当地を訪れていたものの、天候が影響して、現地での行動が抑制され、当施設の利用につながらなかった。
▲	美容室 (経営者)	それ以外	・円安の影響により、輸入商材が年に2回くらいの頻度で値上げしている。客からも、もう買えないなどの声を聞く機会が増えている。
×	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・円安が景気悪化の根本的な要因となっている。円安により、消費者物価が上昇していることで、実質賃金が減少し、客の節約志向を招いている。ある調査によると、衣食住のうち、衣が1番の節約対象となっており、おしゃれ度の高いものほど節約するということであった。当社の商品は、比較のおしゃれ度が高く、低価格帯の商品ではないため、大きな影響を受けている。

	×	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・セールの開催により、少しでもにぎわいを取り戻すことを期待していたものの、集客が厳しく、オーダー商品の買い控えも多くみられた。厳しい状況からなかなか抜け出せずにいる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・7月以降、当地域内での売上が増加傾向にある。
	○	建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・残暑が続いているものの、現場での熱中症対策が浸透、徹底されていることから、工程への影響は生じていない。おおむね好天に恵まれていることで、各現場の進捗は良好であり、出来高も順調に積み上がっている。
	○	輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・受注量が増加している。物量も増えていることから、景気はやや良くなっている。
	○	通信業 (営業担当)	取引先の様子	・データセンターやG X関連産業の動きが活発になっていることで、当地経済の盛り上がりが見られる。
	○	金融業 (従業員)	取引先の様子	・受注単価や販売単価が上昇している企業が増加している。特に非製造業で価格転嫁を進めているという声を聞く機会が増えている。ただし、原材料価格や仕入価格の上昇、人件費の増加が収益を圧迫しているという声も多い。
	○	広告代理店 (従業員)	受注量や販売量の動き	・現状、順調に売上目標を達成していることから、景気はやや良くなっている。
	○	コピーサービス業 (従業員)	取引先の様子	・建設業の業績が順調に推移している。取引先の様子や設備投資の動きをみても、前年より好調な企業が増えている。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	取引先の様子	・人手不足や資材価格高騰などの影響もあって、先行き不透明感や企業間の差異はみられるものの、底堅い公共投資、着実な民間設備投資を背景に、国内全体の建設投資は伸びがみられる。そのため、景気はやや良くなっている。
	□	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・本格的な収穫期を間際に控えているなか、りんごについては、まずまずの動き出しとなっている。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・価格改定に伴い、受注量が減っているものの、売上は横ばいで推移している。
	□	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・住宅着工棟数が増加しそうな雰囲気もあるものの、金利上昇の動きを受けて、戸建て住宅の購買意欲が落ち込むことが懸念される。戸建て住宅を取得するために必要な年収が平均1000万円まで上昇していると言われていることもあって、当社を取り巻く環境は厳しい状況にある。
	□	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・民間建設の契約が徐々に成立していることで、景気が上向いている面もあるものの、物価高の影響により、利益をそれほど得られない状況にある。
	□	建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・案件自体はあることから、景気は上向いている。ただし、対応できる人材が不足していることで、案件を断るケースも生じている。
	□	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・乳製品関連は、例年と比べて、本州での生乳生産が堅調なことから、本州向けの物量が減少している。それと連動して、バター、粉乳の在庫も積み上がっている。トレーラー輸送は、イワシが不漁なことで、魚粉の保管、輸送で大きな打撃を受けている。また、台風などの影響により、輸送ダイヤが乱れ、コンテナ専用台車の滞留が発生しており、解消のためのコスト負担が増加している。一方、農産物関連は、新玉ねぎが順調に動いており、今後に向けて、大いに期待できる見込みとなっている。
	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、ベース商品の売上見込みが減少傾向で推移している。多種にわたる商品が値上がりしているなか、売上が減少することは取扱量が減っているということになる。

	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・受注量は、例年よりやや少ないものの、件数的には足りている。ただし、資材価格や電気料金などの経費が上昇していることから、経営的には厳しい状況となっている。一部では、賃上げや業績改善により、景気が緩やかに持ち直しているとの見方もあるものの、地方都市においては、賃上げなどの話を聞く機会は余りないのが実情である。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・時期的な要因もあって、8月の売上は例年とそれほど変わらないものの、3か月前の業績がかなり良かったことから、3か月前と比較すると、景気は若干悪くなっている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・直近3か月の新規面談実施数は落ち着いているものの、書類推薦数や1次面接に進む件数は増加傾向にある。これは、転職相談にとどまる層よりも、転職を実際に進める意欲の高い求職者数が増えているためとみられる。求職者の具体的な行動が活発化しており、内定や入社に直結する前向きな動きがみられることから、景気はやや良くなっている。
	○	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・運輸業、不動産、外食産業などで改善の動きがみられることで、求人件数が横ばいとなった。ただし、宿泊業や建設業、小売業は低迷している。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を考慮すると、業種にかかわらず、求人数は3か月前と大きく変わっていない。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・農業については、収穫期を迎え、順調に推移している。観光関連も好調で、これまで季節運航便であった航空路線の通年就航が決定したほか、来年には4つのホテルの開業や民泊の増加が予定されていることから、今後の需要拡大も期待できる。ただし、こうした好況の恩恵を受けているのは一部の業種にとどまっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が減少傾向であることに変わりはないものの、求人事業所数が横ばいとなったことから、人手不足を要因に、企業の雇用意欲の高い状態が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・管内の新規求人数は前年を下回っているものの、人手不足と求人抑制が並行して進んでいることから、景気の良しあしを判断しづらい状況となっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地の7月の月間有効求人倍率は0.73倍であり、前年を0.08ポイント下回り、12か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、減少傾向で推移している。ただし、減少幅は月によって上下しており、求人数の減少が景気の悪化によるものとはいえない状況にある。物価高騰や人件費負担の増加、人口減少及び少子高齢化の進行といった様々な要因を注視することが必要になっている。
	▲	学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・物価高や企業収益の先行き不透明感から、採用を抑制する企業が増えており、求人数が減少傾向にある。
	×	*	*	*